

(別紙様式)

(A 3 判横)

令和 4 年度 学校自己評価システムシート（滑川町立福田小学校）

目指す学校像	志を立て失敗を恐れず挑戦する気概を育む学校～師弟敬愛の楽園～
--------	--------------------------------

重 点 目 標	with coronaを踏まえた学校経営の推進 1 学力の向上、体力の向上 2 豊かな心の育成、基本的な生活習慣の確立 3 開かれた学校づくり（応援したくなる学校づくり） 4 教育の質の向上を図る働き方改革
---------	---

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。

※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者 事務局(教職員)	8名 3名
-----	-------------------	----------

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 (2 月 1 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○学校課題研究の推進により、学力向上をめざし、タブレットを活用した授業改善、授業づくりを推進している。また、オンライン授業も実施している。 ●「主体的対話的で深い学び」を目指した授業改善サイクルの確立が必要である。学校課題研究の推進を通して実現する。 ○運動好きの子供を育てることを目指した体育授業を推進している。 ●体力に課題がある。運動好きの子供の育成を目指した授業づくり、体育的活動の実施を通して実現する。	学力の向上 体力の向上	○感染症対策を継続する。 ○ICT活用のための教職員のスキルアップを図る。 ○「読解力」に力点を置いた授業改善を図る。 ○特性に触れた喜びを味わわせる体育授業を創造する。 ○体育的活動を推進する。	○学校評価に係る保護者対象アンケートで、「学力向上」に関し9割以上が好意的な評価したか。 ○体育授業改善に向けた取り組みを共有したか。	○学力に関する保護者アンケート好意的評価94.3%（昨年92.1%） ○感染症による臨時休業はなかった。 ○学校課題研究を通して教師のICT活用スキルの向上、授業改善を図り、成果を得た。 ○体育に関する保護者アンケート好意的評価90.2%（昨年89.1%） ○持久走等体育授業改善の取り組みを共有し、成果を得た。	b	●言語活動の充実を図り、「読解力」の向上を意図した授業改善活動を継続する。学校課題研究推進を通して実現する。 ●体力に課題がある。運動好きの子供の育成を目指した授業づくり、体育的活動の実施を通して実現する。
2	○児童の思いやりのある心が育っている。「規律在る態度」のレベルは高い。 ●「自己有用感」「傾聴」の指導・支援を継続する。 ●身の回りの整理整頓等に課題がある。5S活動を推進する。 ●関係諸機関との連携で成果を上げている。今後とも、新たな課題に機敏に対応していく。	豊かな心の育成 基本的な生活習慣の確立	○人事評価制度を活用するほか、「自己有用感」「傾聴」の指導例を共有する。 ○「自立、貢献」をキーワードにした積極的な生徒指導を推進する。 ○実践意欲、実践的態度を育む道德教育を推進する。 ○人権教育を推進する。 ○教育委員会、健康福祉課、保健センター、嵐山学園、民生委員等関係諸機関との連携を強化する。	○児童、保護者対象のアンケートで、基本的な生活習慣の確立に関し9割以上が好意的に評価したか。 ○学校自己評価で、児童像の育成に関して全職員が成果を認めたか。 ○関係諸機関との連携により、課題を解決したか。	○基本的な生活習慣に関するアンケート好意的評価、児童94.4%、保護者91.7%（昨年 児童93.1%、保護者86.9%） ○「自己有用感」「傾聴」の指導が定着している。 ○職員対象のアンケートで、児童像4項目、豊かな心の育成5項目で平均3.4ポイント（満点4）の回答を得た。 ○スクールカウンセラーとの連携で成果を得た。	b	●「自己有用感」「傾聴」の指導・支援は、学力の向上にとっても重要である。今後も、教職員のベクトルを揃えて取り組む。 ●身の回りの整理整頓等に課題がある。本年度の方策を継続して実施する。また、保護者との連携を強化する。 ●関係諸機関との連携で成果を得た。今後とも、新たな課題に機敏に対応していく。
3	○「開かれた学校」について好意的な評価を得ている。 ●家庭、地域とミッションを共有し、「応援したくなる学校」を実現する。	開かれた学校づくり （信頼される学校づくり）	○学校運営協議会実施と地域学校協働活動の充実を見据えた関係諸機関との連携を実現する。 （学校評議員会、学校応援団、PTA、歴代PTA会長、谷津の里、エコミュージアム、森林公園・・・） ○苦情を意見に読み替えて組織として対応していくことを確認する。 ○「足を運ぶ」「すばやい対応が最大の誠意」を徹底する。 ○保護者や地域住民の声を丁寧に聞き、学校経営に反映させる。	○保護者等対象のアンケートで、「開かれた学校」に関し、9割以上が好意的に評価したか。 ○地域学校協働活動を推進したか。	○開かれた学校に関する保護者アンケート好意的評価95.1%（昨年93.8%） ○流しゼリー、稲作体験、水生生物調査、環境整備等関係諸機関と連携して実施し成果があった。 ○危険箇所等の速やかな整備等に努め成果を得た。 ○要望、苦情等に迅速に対応した。	b	●学校運営協議会を立ち上げるとともに、地域学校協働活動を推進する。 ●令和6年度実施予定の「特認校」実施に向けて準備する。
4	○勤怠ソフトにより、出勤退勤時間を把握している。超過勤務時間に一定の成果を得ている。 ●超過勤務時間の上限ガイドラインを目標とした具体的な超勤時間縮減が課題である。前残業、優先順位などの意識改革に基づく成功例を示し、指導する。また、学校行事後直ちに次年度の計画を示す等、具体的な働き方改革例を示す。また、意識改革を目指したカエル会議を充実する。	教育の質の向上を図る働き方改革	○「私達はこんな教師を目指します」を常に意識する。 ○OJTを推進し、資質能力の向上を実現する。 ○授業改善、子供と向き合う時間の確保を優先した業務改善を推進する。 ○トラブルを学びにかえる支援を行う。 ○方針を明確にし、教職員に具体的な施策提言を求める。 ○時間外勤務時間45時間の勤務ペースを体験し、改革案のボトムアップを求める。 ○倫理確立委員会の活性化により、服務規律の徹底とマナーの向上を実現する。	○超過勤務時間を文部科学省上限ガイドライン（45h/m、360h/y）以内に収めたか。 ○教育の質を維持向上にできたか。	○教職員対象アンケート「目指す教職員像」5項目で3.4ポイントの結果を得た。 ○OJTに成果を得た。 ○教育の質を維持向上させながら、平均在校時間は着実に縮減できた。 ●ガイドライン以上の超過勤務者が複数名存在する。	b	●超過勤務時間の上限ガイドラインを目標とした具体的な超勤時間縮減が課題である。前残業、優先順位などの意識改革に基づく成功例を示し、指導する。また、学校行事後直ちに次年度の計画を示す等、具体的な働き方改革例を示す。また、意識改革を目指したカエル会議を充実する。

学 校 関 係 者 評 価
実 施 日 令和5年2月2日
学校関係者からの意見・要望・評価等
○授業中の先生方の様子を見ていて、とても一生懸命に指導してくださっている。子供たちも楽しそうに学んでいる姿を見ると、「学力の向上、体力の向上」の達成度「b」は「a」でもよいのではないかな。 ○学校評価アンケートを見ると保護者、児童ともに満足度が高い。 ○昔は放課後に外遊びで活動していたが、今は学校での活動が中心なので、体育の授業で自信を持たせてあげたい。ほめて伸ばすという姿勢は大切である。
○児童に相手を思いやる言動がみられ、優しい心が育っていると聞いた。登下校の見守りに出ても、和泉方面の9割方の児童が挨拶してくれる。 ○学校の下駄箱や傘立てが、いつもきれいにされている。 ○いつも言っているが、各教室がとてもきれいだ。 ○システムシートの「豊かな心の育成、基本的な生活習慣の確立」について、達成度は「a」でもよいのではないかな。
○学校応援団の活動は、地域の資源や人材をもっと活用してほしい。地域住民の中にも、軽い挨拶で言われればやってくれる人はいる。特にシニア世代は言われれば嫌な顔はしない。 ○「谷津の里」の方の協力も今後お願いしてみてもどうか。 ○地域に子供が少ないと情報量も少なくなってしまうので、学校のSOSを情報発信できるとよいのではないかな。 ○教職員の仕事量がまだまだ多いということなので、PTAとしても何かあれば協力したい。
○教職員の働き方については、20日間の時間外2時間でも月に40時間である。教職員もある程度割り切って、計画を立てて就業することが大切だと思う。 ○教職員がお互いにカバーし合いながら働くことが必要である。 ○小規模校であるために人数が少ない中でも、先生方はよくやってくれている。